

2006年6月22日

各 位

国際石油開発帝石ホールディングス株式会社
双 日 株 式 会 社

ブラジル連邦共和国フラージ油田最終投資決定について
～ ブラジルにおける本邦企業初の油田生産 ～

国際石油開発帝石ホールディングス株式会社および双日株式会社が、両社および独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構の合弁会社であるインペックス北カンポス沖石油株式会社を通じてブラジル現地法人 FJPL 社 (Frade Japão Petróleo Limitada) により参加しているフラージ油田開発プロジェクトに関して、6月15日、同油田開発に関する最終投資決定が行われました。この決定により 2009年4月の同油田生産開始に向けての本格的開発作業が開始いたします。

ブラジル連邦共和国カンポス沖合のフラージ油田を開発する本プロジェクトでは、FJPL 社 18.3%、米国シェブロン社 (Chevron、オペレーター) 51.7%およびブラジル国営石油会社ペトロbras (Petrobras) 30%の参加権益比率で構成する国際コンソーシアムが事業を実施いたしております。フラージ油田は、1986年に発見されましたが、探鉱・評価段階にあった 1999年7月に、FJPL 社は、ペトロbrasとの間で権益譲渡契約を締結し参入したものです。

フラージ油田は、離岸距離約 120km、水深は 1,050～1,300m の深海部に位置します。本油田は、約 3 億バレルの原油の可採埋蔵量が期待されており、生産量は日産 10 万バレルの規模となる見込みです。海底仕上げ井と FPSO (浮遊式石油生産・貯油・出荷施設) による開発コンセプトを採用し、総投資額は、24 億米ドルを予定しております。

今回の最終投資決定により、我が国企業が権益を保有するブラジルの石油開発プロジェクトとして初の原油生産が実現することとなります。また、本件はブラジルの石油上流権益の外国資本への開放以来、開発移行に至った 3 番目のプロジェクトであり、日伯両国政府の期待が大きなものとなっております。国際石油開発帝石ホールディングスと双日は、今後とも着実な生産開始実現に向けてフラージ油田の開発作業に取り組んでいくとともに、さらなるブラジルでの石油開発プロジェクトの開拓にも努めて参ります。

以 上

<補足説明>

1. インペックス北カンポス沖石油(株)の株主は、石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC) 50%、国際石油開発(株) (国際石油開発帝石ホールディングス(株)) 37.5%、双日(株)12.5%。
2. FJPL 社は、実質的にインペックス北カンポス沖石油(株)の 100%子会社。ブラジル法では、コンセッションの権益保有はブラジル法人とする旨定められているため、1999年7月に、権益保有会社として FJPL 社を設立した。
3. 国際石油開発帝石ホールディングス(株)および双日(株)のプロジェクト参加は、当時のインドネシア石油(株)および日商岩井(株)が共同で、同鉱区権益を 100%保有していたペトロブラスから権益譲渡を受けたことによる。

【本件に関する問い合わせ】

国際石油開発帝石ホールディングス株式会社	広報・IR ユニット	03-5448-0205
双 日 株 式 会 社	広報部	03-5520-3185

ブラジル カンポス沖 フラージ油田位置図

